

日本の英知が集結する令和の水滸伝④ 〜原子力発電所をめぐる議論は

智の梁山泊の真骨頂〜 編集部

「原発銀座・若狭」からの報告
「フクシマ」以後のこと〜後編〜

2023年2月16日のオンライン講座に登壇したのは、「原発設置反対小浜市民の会」元事務局長で明通寺住職の中寫哲演氏。

西の原発銀座と呼ばれる福井県のなかにあつて、「ふるさと小浜に原発を建てさせてはならない」という思いから、一切の原発施設建設を阻



明通寺 (明通寺ホームページより)

止しつづけてきた小浜市の反原発活動の中心的人物である。

1942年(昭和17年)に福井県小浜市に生まれ、東京芸術大学を中退後、高野山大学仏教学科に在学中の1963年に、友人に半ば強引に平和行進に連れて行かれ、広島原爆の男性被爆者と出会ったのをきっかけに、被爆者支援の活動を始めた。また、日本宗教者平和協議会にかかわり、広島の被爆者支援をつづけてきた。

1966年に小浜市に帰郷。「世界一の原発銀座」若狭・明通寺(真言宗・小浜市)の住職として、原発現地での反原発市民運動を展開してきた。爾来、1994年の被爆者援護法制定まで26年間、被爆者支援を目的に毎月6日と9日に明通寺周辺3集落(約80戸)で托鉢を続けた方である。帰郷した1968年に小浜市に原

発4基の建設・誘致の計画が持ち上がり、1969年に地元漁協による

「内外海地区原発設置反対推進協議会」の活動が始まると、1971年暮れに同協議会の後継組織「原発設置反対小浜市民の会」を結成、事務局長を務めた。

そんな中寫住職の、「原発銀座・若狭」からの報告「フクシマ」以後のこと〜と題されたお話しは、1968〜1972年の「小浜原発第1次誘致阻止」、1976〜1977年の「小浜原発第2次誘致阻止」、1984〜1987年の「小浜原発第3次誘致阻止」、そして1999〜2004年の「使用済み核燃料中間貯蔵施設第1次誘致阻止」、2008年の「使用済み核燃料中間貯蔵施設第2次誘致阻止」、さらに1981〜1984年の「大

飯原発3・4号機増設反対」の歴史を紹介し、ふるさと若狭の反原発の市民運動の中心的存在としての活動の歴史を背景に、現場に居たからこそ語ることのできる迫真のドキュメンタリーと、中寫住職だからこそ語ることのできる奥深い考察に溢れる内容で、実例や資料を提示してのお話は濃密なものとなった。

なぜ若狭ばかりに原発が集まってくるのか?という素朴な疑問を掲げ、ある科学者の講演にあつた「原発1基が1年間稼働すれば、広島原爆1000発分の、死の灰」と、長崎原爆30発分のプルトニウムが生成される」という言葉がきっかけとなり、反原発運動を始めたという経緯は説得力のあるものであった。

福島事故で安全神話が崩壊したと言われているが、じつは福島や若狭に1基目の原発を押し付けた時点で、「原爆の材料が大量に残る危険性があるから、若狭のような過疎地にしか原発は建てられない」という事実から原発は自らの安全性を否定していたとし、これからも絶えることなく反原発の活動を推進していく決意で講義は締めくくられた。

『智の梁山泊』

反対意見もきちんと聞く

中寫住職のお話が終わった後、質疑応答となるのだが、この日は原発の姿勢だけでなく、原発推進を掲げる参加者も活発な発言を行い、福島第1原子力発電所のメルトダウン事故の原因に対する考察から、その解決策への提案といった現状打開の話も語られた。

さらに若狭で起こった多額の原発交付金による、住民たちに対する言論の自由の封じ込めなど、中寫住職のおっしゃる「原発マネーファシズム」への言及。また大飯原発3・4号増設に反対して、福井県内外から参加した2600名もの市民のデモでは、人口8000人あまりの小さな旧大飯町に、ジュラルミンの盾を持った1500人の機動隊員、40台以上の機動車、合わせて1900人もの制服の警官と私服の公安が押しかけたとのことで、肝心の旧大飯町民はひとりも参加できなかったという。この圧力のせいなのか、たった4人だけが、仕方なく路傍から手を振ってデモ隊にエールを送った事実なども補足された。

中寫住職の原発反対の姿勢と、実際に原発に係り、さまざまな経験をお持ちの技術者や科学者の方、さらに今回の中寫住職のお話によって関心を喚起させられた受講者など、まったく違う立ち位置の参加者からの発言が続出し、この日のセミナーは深夜にまで及ぶこととなった。

まさに岸田政権が、それまでの論調を翻し、大きく原子力発電所容認に舵を切り、運転期間延長認可制度に基づき、新規制基準により安全性が確認された原子力発電所は最大60年運転することができるよう方針を打ち出した最中のオンライン講義であったため、参加者からの関心も高く、まさに議論百出の様相であった。

その中で気づいたのは、こうした議論が重ねられると、往々にして反対者の意見を非難したり、否定したり、黙殺したりという感情的な事態が発生しがちなのだが、この『智の梁山泊』の参加者は、常に冷静であり、きちんとそれぞれの意見を聞き、それに対しての反論なり賛同なりを送るといふ、じつに好ましい議論のあり方が展開されたことであった。18世紀のフランスを代表する啓蒙

思想家、文学者であるヴォルテールの名言「私はあなたの意見には反対だ。だがあなたがそれを主張する権利は命をかけて守る」という民主主義の根幹となる『言論の自由』がそこにあつたのであり、まさに『智の梁山泊』の面目躍如という場面であった。

『はとぼっぽ通信』

中寫哲演氏は、福井県小浜市門前にある真言宗御室派の寺院である明通寺の住職である。明通寺は、深山幽谷の地にひっそりとたたずむ山寺で、その山号は創建当初桐木で本尊薬師如来を彫ったことから桐山とされた。その歴史は古く、大同元年

(806年)に坂上田村麻呂によって創建されたと伝えられている。国宝指定の本堂・三重塔をはじめ、重文の仏像など数多くの文化財を擁する古刹で、本尊は薬師如来である。国宝の本堂は、正嘉2年(1258)に建立された、入母屋造松皮葺、桁行5間(14・72m)・梁行6間(14・87m)の建物で、屋根の勾配のきつさと、柱と柱の間を幅広くとるなど豪壮な建築資材の使い方や組



『はとぼっぽ通信』

み方で知られ、武家社会の円熟期の象徴とされる建物である。

1969年に地元漁協によって「内外海原発設置反対推進協議会」の活動が始まった。それを引き継ぐ形で1971年暮れに生まれたのが「原発設置反対小浜市民の会」であり、その事務局長を務めたのが中寫住職である。爾来中寫住職は一貫して原発市民運動を展開してきた。

その活動の歴史を刻んできたのが「原発設置反対小浜市民の会」が年6回発行している『はとぼっぽ通信』である。明通寺を基軸に、小浜のみならず若狭、そして京都、さらには全国の原発設置反対運動に係る情報を網羅してきた。

連絡先・・・〒917・8691
小浜郵便局私書箱第3号
Tel・・・0770・57・1355
Fax・・・0770・57・1852